



芝生を通じて芽生える思いやりの心と絆

〈特集〉ポット苗補植の取組

- 校庭芝生化地域連携事業の御案内
- 隣の芝生化校訪問
- 校庭芝生リーダー養成講座
- あっぱれ！親方



1,000 人を超える児童数、校庭の南側に校舎が建つ環境にあり
芝生化して7年目を迎える今も全面芝生を維持している府中第二小学校。
その秘けつは…



みんなで関わる校庭の芝生は誇り 府中市立府中第二小学校

児童数：1,017名(平成28年5月1日現在)
芝生化面積：3,908㎡
芝生が完成した時期：平成21年度



グリーンキーパーを中心とした維持管理

芝生化の翌年度に維持管理をするボランティア団体としてグリーンキーパーが立ち上がりました。芝刈り、肥料まき、雑草抜きなどの日常的な維持管理は、30人前後のグリーンキーパーを中心に行っています。人材確保や限られた時間で活動を行うことは容易なことではありませんが、保護者だけでなく、校庭利用団体や地域の方々にも声を掛けてボランティアの輪を広げ、当番を決めて活動しています。

～今年度からの新しい試み～

ポット苗づくりを各家庭で



夏休み前に裸地となった部分にポット苗による補植作業を行っています。全児童が学校でポット苗を作りますが、今年度初めて各家庭でもポット苗を育ててもらおう試みを行いました。保護者からは「仕事の都合で継続的なボランティア参加は難しいけれど、家庭で育てることなら参加できる」「ポット苗を通じて校庭の芝生に関わったことで芝生に興味を持つようになった」という声が聞かれました。



サンサンネットの効果に期待

平成28年2月に東京都庁で行われた「校庭芝生リーダー養成講座」に参加した際に、三鷹市の学校で取り組まれている芝生の“バンソウコウ”を知りました。光透過性の高い農業用防虫シートを張ることで踏圧による擦り切れを防ぐため、子供たちがいつでもどおり校庭を使用できるというもので、是非府中第二小学校でも試してみようということになりました。

冬芝の種をまいた後、サンサンネットをかぶせて様子を見たところ、発芽からの生育状況が良い結果となりました。ポット苗を植えた後にもかぶせると、夏休みが終わる頃には一面緑の芝生に回復。種まきや補植後は子供たちが校庭で遊べなかったり、芽がなかなか伸びずに悩むことがありました。サンサンネットをかぶせることで、子供たちの生活環境にとっても芝生の生育にとっても好ましい効果が見られています。



冬芝の種まきをした後、サンサンネットをかぶせる



2週間後

サンサンネットを被せた場所。緑が濃く芽が生長

みんなで関わり、みんなで手入れをする芝生の校庭



8月下旬のある日、府中第二小学校の教室に、教職員、PTA、校庭利用団体の代表、グリーンキーパー、地域住民、芝生の専門家が集まって「芝生会議」が開かれました。今回のテーマは「冬芝の種まき」。学校行事の計画や校庭利用団体の意見を聞きながら、種まきに最適な時期を相談し、当日の役割分担や手順の確認を行いました。

府中第二小学校の芝生の維持管理には、たくさんの方が関わっています。多くの人の手が掛かれれば掛かっただけ芝生の状況が良くなっていきます。これだけ多くの方が関わっていることは、府中第二小学校の自慢です。一面緑の芝生も擦り切れている芝生も、府中第二小学校の芝生です。良好な芝生の状態を保つことは大事ですが、そのために何が必要かをみんなで考え、みんなで取り組み、「みんなで芝生に関わること」が何より大切です。





ポット苗による芝生の補植とは、芝草の苗を小さなポットに植えて生長させてから校庭に植える方法です。

葛飾区立南綾瀬小学校

児童数：136名(平成28年5月1日現在)
芝生化面積：2,940㎡
芝生が完成した時期：平成22年度

5月18日 専門家に電話相談
裸地が目立ち、夏芝がなかなか出てこない…

5月25日 専門家による現地確認
一部に残る冬芝を低く刈り、夏芝の生育を促す。裸地の部分は、ポット苗による補植を行うことに。

6月1日 ポット苗づくり
専門家の指導の下、4～6年生がポット苗づくりに挑戦。7,500個の苗を作りました。

7月12日 ポット苗の植付け
学校、保護者、地域の皆さんで穴を掘り、子供たちが苗の植付けを実施。ポットからそっと苗を取り出して、一つずつ丁寧にしっかりと植えました。

養生期間
夏休み期間中は養生をし、水と日光をたっぷり浴びた芝生。苗と苗がつながり、裸地に芝生がだんだんと広がりました。

10月2日 芝生の校庭で運動会
青空の下、一面に広がった芝生の上で運動会を実施。子供たちの笑顔が光りました。



「共に」という考え方を大切に

インタビュー 風澤 明子 校長先生
夏休みが明けて一面に芝生が広がった校庭を見て、子供たちは、「わあ～すごーい！きれい」と目を輝かせていました。自分たちが育てたポット苗が夏休みの間にみるみる成長し、生まれ変わった経験はとても貴重なものでした。

補植活動には、子供たちだけでなく保護者や地域の方々にも声を掛けて参加していただきました。「共に」取り組むことが大切だと考えています。見事に回復した芝生の上で、楽しみにしていた運動会やお弁当給食を行うことができました。子供たちの笑顔を見て良い取組ができた実感しています。

世田谷区立旭小学校

児童数：494名(平成28年5月1日現在)
芝生化面積：979㎡
芝生が完成した時期：平成19年度

4月25日 専門家に電話相談
よく使う場所を中心に裸地が目立っている…

5月9日 専門家による現地確認
学校と地域と一緒にポット苗による補植を行うことに。

6月7日 ポット苗づくり
専門家の指導の下、5,6年生がポット苗づくりに挑戦しました。

7月11日 ポット苗の植付け
「旭の庭わくわく隊」(維持管理団体)が中心となって穴を掘り、子供たちが苗の植付けを実施。クラスごとにエリアを分担して、植えていきました。

養生期間
部分芝生のため、芝生以外のエリアを有効活用して、苗の生育を待ちました。

9月10日 芝生の上で映画会
青々とした芝生が回復。毎年恒例の映画会を今年もふかふかの芝生の上で開催できました。



芝生との「関わり」を大切に

インタビュー 菊地 まゆみ 校長先生
ポット苗による補植活動を始めて3年目になり、年々芝生の状態が良くなっています。補植活動を始めたのは、裸地となった芝生を回復させることももちろんですが、芝生との「関わり」を大切にしたいという思いがありました。補植活動をした後、養生期間中はそっと休ませてあげようと芝生の脇を気をつけて歩く様子や芝生の育ち具合を確かめる子供の姿が見られました。補植活動を通じて芝生と「関わる」ことで、子供たちに芝生への愛着が確実に芽生えています。

芝生の上で映画会

日が暮れて心地良いそよ風が吹く芝生の校庭に、子供から大人までたくさんの人たちが集まってきました。毎年恒例となった「芝生の上で映画会」の開催です。

旭小学校では、芝生の維持管理団体として結成された「旭の庭わくわく隊」が中心となり、芝刈りや肥料まきなどの日常的な維持管理のほか、芝生の上で映画会、野球、サッカー、ピラティスなど、様々なイベントを行っています。映画会は在校生だけではなく、卒業生や近隣の幼稚園、小学校、地域住民

まで幅広く声を掛けています。代表の猪股さんは、「映画会で必要な映写機は近隣の児童館からお借りしています。維持管理もイベントの運営も大変ですが、在校生の保護者だけではなく、卒業生やその保護者、地域住民、近隣の施設など、旭小学校を取り巻く多くの人の協力の下で行えています。」とおっしゃいます。芝生により人と人とのつながりが生まれ、今年も緑一面の芝生の上に、「にほん昔ばなし」を観る約500人の笑顔がありました。

校庭芝生化地域連携事業の御案内

維持管理や芝生を活用した文化・スポーツ活動を支援します！

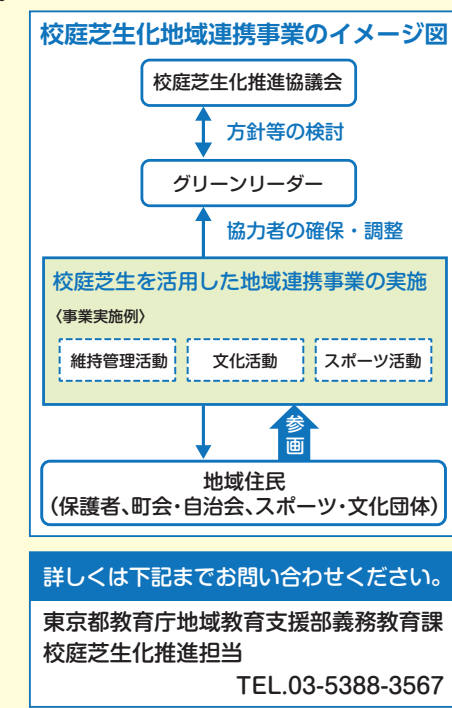
Q 地域連携事業とは？
学校と地域が連携して行う芝生の維持管理活動や芝生を活用した文化・スポーツ活動を通じて、子供たちの健やかな成長や地域の教育力を活性化することを目的とした事業です。

Q 事業の内容は？
以下の要件を満たした公立小・中学校を対象に1校当たり30万円を上限に支援します。

- 学校と地域による「校庭芝生化推進協議会」の設置
【構成例】 学校長、教職員、PTA関係者、町会・自治会長、青少年育成委員等
- 地域協力者の確保等のコーディネートを行うグリーンリーダーの配置

Q どのような活動に費用を使えますか？

維持管理活動 芝刈り、種まき・肥料まき、ポット苗補植など ・肥料、目土など消耗品の購入 ・軍手、熊手など用具の購入 ・維持管理の講習会の材料費 など	文化活動 コンサート、野外映画会、野点など ・イベント用機材レンタル代 など (例 プロジェクター)
スポーツ活動 タグラグビー、スナッグゴルフ、校庭キャンプなど ・グローブ、ボール、ラインマーカーの購入 など	推進協議会の運営 ・協議会委員や指導者への謝礼 ・広報誌の印刷 など



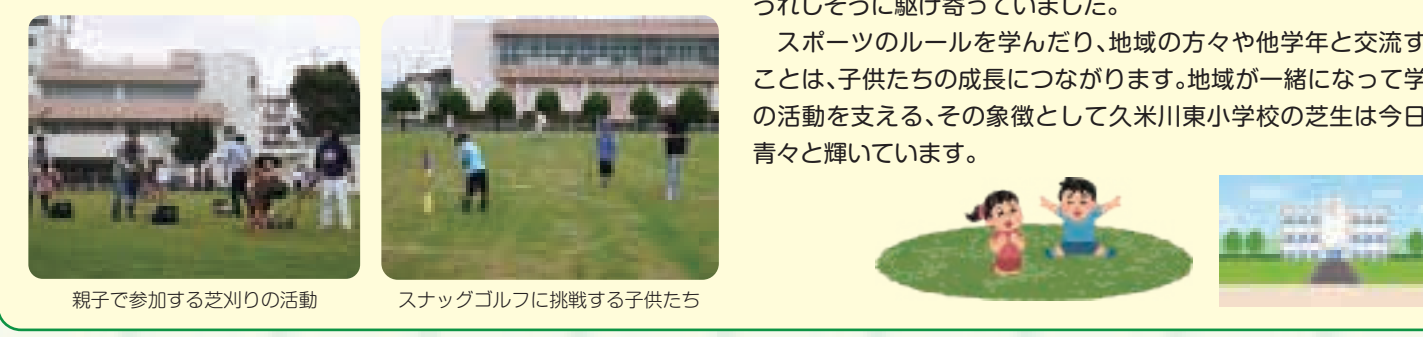
地域連携事業を活用した学校の取組を紹介

東村山市立久米川東小学校

児童数：510名(平成28年5月1日現在)
芝生化面積：3,615㎡
芝生が完成した時期：平成19年度

久米川東小学校では、校庭芝生化推進協議会とボランティア運営委員会を中心に維持管理活動や芝生を活用した教育活動を行っています。

芝刈りは、児童・保護者・学校の教職員・地域住民が参加し、多い時には100人程が集まります。「初めての人はまず芝刈り機を動かしてみよう！」「雑草が目立ってきたので、雑草抜きに慣れている人は是非力を貸してください！」と呼び掛けます。芝生の校庭に一齐に散らばって、親子で一緒に芝刈り機を押ししたり、芝でいっぱいになったかごを運んだり、根が張った雑草を抜いたり、「みんなで使う芝生の校庭だから、みんなで大切に育てる」正にその光景が広がります。グリーンリーダーの柿沼さんは「保護者の会で『一人一役ボランティアに参加しよう』という声掛けがあり、皆さん意欲的にボランティア活動に参加しています。芝刈りは、刈った後に爽快感があると人気の活動です。」と話してくださいました。



親子で参加する芝刈りの活動 / スナッグゴルフに挑戦する子供たち

芝生の専門家から ひとつことアドバイス

株式会社 栗芝 代表取締役 **栗島 香**さん
TEL.03-5903-5333

ポット苗補植のメリットは？

- ①芝が自分の力で自生するので、生命力が強く丈夫な芝草に育ちます。
- ②児童・生徒、保護者、地域の皆さんが自分たちの手で作業するので、芝生に愛着を持つようになります。
- ③「この程度の傷みなら自分たちの手で回復できること」が分かった、「利用」→「傷み」→「再生」のサイクルが確立できます。

補植によって回復した部分の芝生は、擦り切れに弱い状態です。芝生の回復がゴールではなく、その芝生をどのように、より丈夫に育てていくかが大切です。校庭の環境は学校によって異なると思いますが、日常の維持管理や利用方法のちょっとした工夫が良好な芝生の維持につながります。困ったときは御相談に応じますので、いつでもお気軽にお電話ください。

ポット苗補植を行う上で大切なことは？

- ☆水・日光・肥料
植付けまでの約6週間、日当たりの良い場所に置き、たっぷりの水と肥料をあげます。
- ☆子供たちの動きに留意
子供たちが遊びに夢中になって苗を傷つけてしまいそうな場面を回避しましょう。芝生の赤ちゃんであることを伝え、子供たちもポット苗を意識するようになります。
- ☆補植後の維持管理と利用の工夫
日常の維持管理作業(散水、芝刈り、肥料まき)をしっかりと行いましょう。同じ場所に過度な踏圧が掛からないように利用の仕方も工夫するようにしてください。

芝生管理のスキルアップを目指して

第2回は平成29年2月に開催予定です

平成28年度 第1回 「校庭芝生リーダー養成講座」を開催しました。

平成28年6月25日【会場】豊島区立長崎小学校
講座運営 公益財団法人都市緑化機構

東京都では、校庭芝生の維持管理に携わっている教職員や地域の皆様を対象に、芝生管理のスキルアップを目的とした「校庭芝生リーダー養成講座」を実施しています。第1回は豊島区立長崎小学校を会場に開催し、約30名の参加者が集まりました。

講座ではまず前半に、芝草の種類や特徴など芝生に関する基礎知識や維持管理上の注意点、芝生の状態を良好に保つための取組事例について講義を行いました。参加者からは、「雑草が群生しているの

ですがどうしたら良いですか？」「肥料を誤って一か所にたくさんこぼしてしまった場合、何か良い解決策はありますか？」など、日頃感じている疑問点や苦勞していることについて積極的に質問がありました。

後半は、芝刈りや肥料散布、ポット苗づくり体験を内容とする実技講習を行いました。機具を使用する際に留意すべき点や工夫について実践的に学ぶことができ、講習を通して参加者同士で情報交換を行うなど交流を持つ場面も見られました。参加者は作成したポット苗を手に、「今日学んだことを自分たちの学校で生かしていきます」と会場を後にしていました。



維持管理のポイントなどを学ぶ講座



芝刈りの実技講習

あっぱれ！親方

校庭芝生の親方の活動の様子を御紹介する「あっぱれ！親方」。今回は平成27年度に親方として認証された、江東区立大島南央小学校子ども育成会会長の相曽正明さんをお訪ねしました。

大島南央小学校は2校が統合してできた学校で、設計段階から芝生化の導入が検討されていました。当時PTA会長だった相曽さんは準備委員会のメンバーの一員として、全面芝ではなく部分芝の選択に賛同しました。それは、導入後のメンテナンスや週末に利用するスポーツ団体のこと等を考慮してのことだそうです。

通常の維持管理はPTAが中心になって行っています。PTA役員の入替えがある年度初めには、相曽さんが維持管理についての講習会を行っているそうです。



親方の相曽さん(左下)とPTAの皆さん

「マニュアルは作ってあるのですが、どうしてもマニュアルには書ききれない部分があるので、それを補ったり直接実践して伝えるようにしています。その後は、私から説明を受けた担当役員の方が中心となって芝刈りを実施する方式で運営しています。」とのこと。

校庭の片隅にあるビオトープで生まれたカエルが芝生まで遊びにきたり、芝刈りを終えた後に小鳥がやってきたりと、芝生のおかげで自然の営みを実感できるそうです。芝生の上を楽しそうにはだして走る子供たちや、運動会で保護者の皆さんが芝生の上でくつろぎながら声援を送っている姿を見るたびに、これまで芝生の維持管理を続けてきて良かったと実感するという相曽さん。



芝生の活用方法について伺ってみると、これまでPTA主催のバザーや近隣の保育園のお散歩等に利用されてきましたが、今後はもっと児童が楽しめる芝生の上ならではの遊びの企画をしてみたい、と話してくださいました。



東京都教育委員会 緑の学び舎づくり事業

東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 〒163-8001 都庁第一本庁舎北側40階

東京都教育庁地域教育支援部義務教育課
TEL (03) 5388-3567 FAX (03) 5388-1734

東京都教育委員会印刷物登録 平成28年度 第130号

校庭芝生化の詳細はホームページでも掲載中

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/seisaku_shibafu.htm

R270

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。